

東日本大震災から15年

～ iii project と考える「防災」～

平成23年3月11日の東日本大震災の発生から、間もなく15年を迎えます。さまざまな地域で自然災害が起きている中、自分や家族の命を守るため、地震や津波の恐ろしさを知り、一人一人が何ができるのかを考えることが大切になっています。



津波の被害を受けた旧飯岡中(平成23年3月)

島田咲良さん(以下島田) 震災当時15歳

大木沙織さん(以下大木) 大学生の頃、東北でボランティアに参加したときに、現地の方々の「本当の復興は心の復興」被災地には若者の力が必要」という言葉を聞き、旭市のために何かしたいと思ったのが活動のきっかけでした。一緒に頑張ってくれる仲間がいたおかげで、10年続けてこられたと思っています。

大木さん(以下大木) 大学生の頃、東北でボランティアに参加したときに、現地の方々の「本当の復興は心の復興」被災地には若者の力が必要」という言葉を聞き、旭市のために何かしたいと思ったのが活動のきっかけでした。一緒に頑張ってくれる仲間がいたおかげで、10年続けてこられたと思っています。

震災から15年、活動開始から10年を迎えます。これまでを振り返っての思いを教えてください。



崎村千紘さん(二)

活動を始めた頃と現在で、変わったことは

島田 最初は「震災を忘れてはいけない」という気持ちが強かったのですが、震災後に生まれた子どもたちに向けて授業するようになり、震災を「他人事ではなく自分事」として捉え、防災意識を高めてほしい」という気持ちが強くなりました。

崎村 今の子どもたちは、家族から聞いたり、テレビのニュースで見たりといった間接的な知識しかありません。「震災はニュースの中のことでなく、自分にも起

ったので、その頃に生まれた人たちが、当時の私と同じ年齢だと考えると感慨深いです。たくさんの方のご縁やご支援があったからこそ、今まで活動を続けてこられたので、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回、県知事から表彰されました

島田 素晴らしい賞を頂き、とても光栄です。自分たちがこれまで取り組んできたことへの「自信」と「自覚」が深まりました。

大木 私たちの活動をより多くの人に知ってもらおうきっかけになったので、賞を頂けて大変ありがたかったです。

黄色い紙面が目印です



「じしんってなんだろう?」

旭市の被害状況やメンバーの体験談、防災クイズ・チェックリストなどを掲載した小学生向けの冊子。防災教育に活用できる映像資料も現在制作中です。



写真提供：iii project



主な活動を紹介

防災教室を開催

「子どもたちが災害時に自分の身を守るように」と小学校などで開催。クイズやワークシヨップを通じて、災害への備えの大切さを伝えています。



トリプルアイ プロジェクト iii project とは

東日本大地震が発生した当時、中学3年生だったメンバーが、平成28年5月に結成。生まれ育った旭市を元気にするため、震災の記憶や教訓を語り継ぎ、子どもたちに「自分の命を守る力」を伝える防災教育などに取り組む。名前の3つの「i」は「(i)飯岡(旭市)」「(i)私の」「(i)愛を」を意味し、地域への愛や自らの経験を未来につなげたいという思いが込められている。

こりうる」と思ってもらうにはどうしたら良いか、防災教室などの在り方も見直していかなくてはならないと思っています。

防災で一番大事なことは

大木 まず第一に「自分の命は自分で守る」こと。その上で、家族と避難場所や連絡方法などを決めておく。災害発生時にどう行動するかを、日ごろから意識しておくことが大事だと思います。

崎村 災害が起きた後では遅いので、いつ起きてもおかしくないと考え、備えておくことが大事です。防災バッグなどの非常持ち出し品はもちろんですが、防災の「知識」の備えも必要だと思います。

今後の活動に向けての思いは

大木 震災当時、中学生ながら津波を目撃しました。生まれて初めて死を覚悟した瞬間で、15年たってもその光景は忘れられません。これからの子どもたちが同じ思いをしないためにも、いざというときに自分の命は自分で守れるような防災教育に力を入れていきたいです。

島田 今後もハンドブックや防災教室を通



大木沙織さん(下永井)



島田咲良さん(岩井)

して、これからは生きていく子どもたちに、防災について分かりやすく学んでもらえるよう活動していきたいです。

崎村 旭市民であり、中学生時代に被災した私たちだからこそ伝えられることを、分かりやすく伝えていくために、メンバーと活動を続けていきたいです。

市民の皆さんにメッセージを

大木 自然災害は、いつどこで起きるか分かりません。「大丈夫だろう」と思わず、いつ起こっても対応できるように、自分がどういう行動をしたら良いかを学び、家族でも話し合ってほしいです。

島田 一人一人が防災意識を持っていれば、万が一災害が起きても、被害を最小限に食い止めることができると思います。いざというときのために備えておけるよう、普段から話し合っておいてほしいです。

崎村 穏やかで住みやすい旭市にも、津波が発生するような大震災が起きる可能性が常にあります。地震や津波自体を防ぐことはできませんが、15年前のような大きな被害を出さないよう、みんなで防災に取り組みましょう。

イベントやSNSで情報を発信

地域のイベントやInstagramなどを通じて、防災に役立つ情報や旭市をPRする情報を発信しています。



写真提供：iii project

防災グッズも作りました



ライトブルー賞を受賞

青少年の育成支援に顕著な功績があった個人・団体を表彰する賞です。これまでの活動が高く評価され、昨年12月に県知事から表彰を受けました。



令和7年度「ライトブルー賞」表彰式